

## 荒川水系河川整備計画原案に対する意見「荒川中流部の第二、第三、第四洪水調節池の増設問題」

荒川中流部の広大な河川敷は多様な水生植物や両生類・魚類等の生息・生育の場となっている。第二、第三、第四洪水調節池の増設はそのかけがえのない豊かな自然を壊すものである。河川整備計画の目標流量を現実性のある値に直せば、洪水調節池の増設は荒川の治水対策として必要性がなくなるから、河川整備計画から削除すべきである。

### 理由（１）第二、第三、第四洪水調節池の増設は荒川中流部河川敷の豊かな自然を破壊する。

荒川中流部にある荒川特有の広大な河川敷は、約 70 年前の蛇行形状を残す旧流路と湿地が残されていて、ミドリシジミの食草であるハンノキ等の河畔林も形成され、多様な水生植物や両生類・魚類等の生息・生育の場となっている。

この荒川中流部の河川敷に下図のとおり、五つの調節池をつくる構想があった。そのうち、第一調節池がダム建設事業（荒川第一調節池総合開発事業）として進められ、1997 年度に完成した。

続いて、荒川第二調節池総合開発事業が計画されたが、2000 年度に中止になった。中止の理由は水道用水の需要が低迷して利水面の必要性がなくなったことと、荒川中流の河川敷の自然を守れという声が強かったことにあると推測される。

今回の計画原案は、上記の構想のうち、荒川第二、第三、第四調節池を治水目的で造ろうというものである。洪水調節容量は荒川第二調節池 5, 100 万 $\text{m}^3$ 、第三調節池 1, 500 万 $\text{m}^3$ 、第四調節池 3, 200 万 $\text{m}^3$ で、合わせて 9, 800 万 $\text{m}^3$ にもなる。第一調節池の洪水調節容量は 3, 900 万 $\text{m}^3$ であるから、中流部の洪水調節容量を 3.5 倍に増やそうというものである。これだけ巨大な容量を確保するためには、第二～四調節池の予定地で大規模な掘削を行うことが必要である。この大規模掘削によって荒川中流部河川敷の豊かな自然が破壊されることは必至である。

さらに、洪水調節池化は完成後も当地の自然に大きな影響を与える。それは乾燥化の進行である。洪水調節池はよほど大きな洪水が来た時しか、越流堤から洪水が入らなくなり、乾燥化が徐々に進行していく。現在の河川敷は洪水時に水浸しになることにより、湿地特有の豊かな生物相が維持されてきたが、洪水調節池になれば、湿地の維持ができなくなってしまう。

このように二つの面で第二、第三、第四洪水調節池の増設は荒川中流部河川敷の豊かな自然を破壊するのである。

荒川中流部の洪水調節池の構想



**理由（２） 河川整備計画の目標流量としてカスリーン台風洪水の計算流量 11,900 m<sup>3</sup>/s は過大であるので、現実性のある目標流量に修正すれば、洪水調節池の増設は不要になる。**

今回の計画原案は、洪水目標流量を 1947 年 9 月のカスリーン台風洪水と同規模にするとして、11,900 m<sup>3</sup>/s（洪水調節なしの岩淵地点流量）としている。これは国交省が今回行った計算流量である。荒川水系河川整備基本方針（2007 年 3 月）の資料ではカスリーン台風の計算流量は 10,560 m<sup>3</sup>/s であって、計算方法によって変わるものであり、11,900 m<sup>3</sup>/s にどこまで信頼性があるのかは不明である。さらに、カスリーン台風当時は山が荒れていた戦争直後の時代であり、その後、植林が進められ、森林が育って山の保水力が高まってきたことにより、洪水の出方が小さくなってきているはずである。今から約 70 年も前の洪水の数字を使うべきではない。

荒川水系河川整備基本方針

表 3-1 主要洪水と洪水被害

洪水発生年	原因	流域平均 3日雨量	岩淵地点 最大流量※ <sup>1</sup>	被害状況※ <sup>2</sup>	
				家屋全・半壊及び流出	床上浸水
明治 43 年 8 月 8 日	台風	477mm	——	家屋全・半壊及び流出	18,147 戸
				床上浸水	192,613 戸
				床下浸水	69,982 戸
昭和 22 年 9 月 13 日	カスリーン 台風	466mm	約 10,560m <sup>3</sup> /s	家屋全・半壊及び流出	509 戸
				床上浸水	124,896 戸
				床下浸水	79,814 戸
昭和 33 年 9 月 25 日	狩野川台風	282mm	約 6,540m <sup>3</sup> /s	床上浸水	135,189 戸
				床下浸水	370,385 戸
昭和 57 年 9 月 10 日	台風 18 号	326mm	約 5,930m <sup>3</sup> /s	床上浸水	6,931 戸
				床下浸水	12,363 戸
平成 11 年 8 月 14 日	熱帯低気圧	354mm	約 7,650m <sup>3</sup> /s	家屋全・半壊及び流出	2 戸
				床上浸水	192,613 戸
				床下浸水	69,982 戸

※<sup>1</sup> 計算流量

※<sup>2</sup> 出典 M43～S33：熊谷气象台 HP，東京市史稿，東京都水害史，東京都水防計画（資料編）

S41～H14：水害統計

※<sup>3</sup> 主要な洪水の基準地点岩淵における洪水到達時間は 1 2～1 8 時間（角屋の式）である。

荒川においてその後、最も大きな洪水流量は 1999 年 8 月洪水の 7,650 m<sup>3</sup>/s（岩淵地点）（荒川水系河川整備基本方針の資料による）であるから、河川整備計画の目標流量は 8,000 m<sup>3</sup>/s とすれば十分である。今回の計画原案による洪水調節後の河道目標流量は 6,200 m<sup>3</sup>/s であるから、整備後の河道で 6,200 m<sup>3</sup>/s を流下させることが可能となっている。

荒川には上流に洪水調節機能を持つ既設ダムが滝沢ダム、浦山ダム、二瀬ダムと三つあり、中流には荒川第一調節池がある。上流 3 ダムの洪水調節容量は合わせて 7,780 万 m<sup>3</sup>、荒川第一調節池の洪水調節容量は 3,900 万 m<sup>3</sup> である。

今回の計画原案の 43 ページには下記のとおり、9 洪水の引き伸ばし計算（戦後最大洪水規模への引き伸ばし）で、上記の既設洪水調節施設により、7,300 m<sup>3</sup>/s 以下までの低減が可能となっている。（横堤・広い高水敷あり（B）が現況を示す。）

9洪水の洪水調節なしの流量は示されていないが、目標流量11,900 m<sup>3</sup>/秒に近い値であるはずである。したがって、11,900 m<sup>3</sup>/秒規模の流量を既設洪水調節施設により、7,300 m<sup>3</sup>/秒以下まで下げているのであるから、この計算結果から考えて、目標流量を8,000 m<sup>3</sup>/秒に修正すれば、既設の洪水調節施設で河道目標流量の6,200 m<sup>3</sup>/秒以下まで下げることが容易である。したがって、目標流量を現実的な洪水流量に修正すれば、荒川調節池の増設による洪水調節はまったく無用のものとなる。

なお、荒川流域における最近の浸水被害は荒川からの越流によるものではなく、ゲリラ豪雨によって降った雨が掃け切れずに溢れてしまう内水氾濫（小河川の氾濫を含む）によるものである。

内水氾濫による浸水被害の防止には、ダムや洪水調節池による洪水調節は何ら役に立たない。雨水貯留・浸透施設の設置、末端排水路・小河川の流下能力の増強、排水機場の強化など、内水氾濫対策への取り組みが急務であり、荒川水系河川整備計画の治水対策も洪水調節地の増設は取りやめて、内水氾濫対策に重点を置いたものに修正すべきである。

(原案) 43 ページ

横堤・広い高水敷による貯留効果量、第二・第三・第四調節池整備による効果量

洪水名 (洪水波形)	岩淵地点流量 (m <sup>3</sup> /s) ※1			横堤・広い高水敷による 貯留効果量 D=A-B (m <sup>3</sup> /s)	第二・第三・第四調節池 整備による効果量 E=B-C (m <sup>3</sup> /s)
	横堤・広い高水敷なし (A) ※2	横堤・広い高水敷あり (B) ※3	第二、第三、第四調節池あり (C) ※4		
S13.8.29	7,200	6,200	5,400	1,000	800
S16.7.20	8,000	6,700	5,700	1,300	1,000
S22.9.13	7,500	6,400	5,600	1,100	800
S33.9.24	8,300	7,000	5,800	1,300	1,200
S49.8.30	6,700	5,800	5,300	900	500
S57.8.1	7,400	6,200	5,300	1,200	900
S57.9.10	8,100	6,900	5,700	1,200	1,200
H11.8.12	8,600	7,300	6,000	1,300	1,300
H19.9.5	8,100	6,900	5,700	1,200	1,200

※2 現況の広い高水敷と低水路の間に壁を立てた場合の、岩淵地点の流量。

※3 現況の広い高水敷の場合の、岩淵地点の流量。

※4 第二、第三、第四調節池を整備した場合の、岩淵地点の流量。